

# 第 57 期・2016 年度 事業計画および収支予算

(2016 年 4 月 1 日～2017 年 3 月 31 日)

一般社団法人 出版文化国際交流会

〒101-0064 東京都千代田区猿楽町 1-2-1

Tel. 03-3291-5685 Fax. 03-3233-3645

<http://www.pace.or.jp>

## 2016年度事業計画

### はじめに

本会では数年来、管理費、事業費における経費節減策を実施すると共に、資金繰りの安定化のため会員の皆さまに会費の一括請求等の特別な計らいのご協力をお願いしてまいりました。会員社の皆さまに心より御礼を申し上げますとともに、新年度も引き続き会員社のご理解とご協力をお願い申し上げます。

本会はお蔭さまで60年を越える歴史を刻んでおりますが、今後も創立以来の基本理念を尊重しつつ、会員社の皆さまのご理解と国際交流基金を始めとする関係機関・団体等のご協力をいただいて日本の出版文化の海外普及に努めたいと存じます。

### 2016年度事業方針について

内閣府より一般社団法人として、移行認可条件である公益目的支出計画の着実な実施を健全な財政運営とともに求められています。今後も管理部門、事業推進の両面において一層堅実な運営に努めたいと存じます。

第23回東京国際ブックフェアには公益目的支出計画の継続事業として、本会独自のブースをもって参加します。本会のブースでは会員社紹介の企画をさらに強めていきたいと思えます。

外務省、国際交流基金及び本会との協議により発足した「国際ブックフェア参加プロジェクト」は国際交流基金との共催事業として本年で30年目を迎えます。予算状況が厳しくなっておりますが、昨年と同程度の規模を確保したいと考えております。

将来的な発展が期待される東南アジアの出版市場については国際ブックフェアを含む予備調査を踏まえた上で具体的な企画を実施したいと存じます。

第68回フランクフルト・ブックフェア、第22回ソウル国際ブックフェアでは、単独出展社のお世話をしつつ、日本会場を構成し出版文化の交流促進を図る中心的役割を担います。特に昨年会場構成が大きく変更されたフランクフルト・ブックフェアでは日本会場の配置問題を中心に主催者との折衝を進めると共に出展に当たっては他団体との連携を一層強化していきたいと存じます。また新年度も出展経費に関する補助金の申請を行い、出展社の経費負担の軽減化を図っていく予定です。

海外出版事情視察団の編成としては、10月のフランクフルト・ブックフェアを中心にヨーロッパ出版事情視察コース、およびビジネスコースの企画を実施したいと存じます。

広報活動では、年2回の会報の発行とホームページの充実を図っていきたいと存じます。『フランクフルト・ブックフェア』（手引き書）は従来、出版事情視察団参加者を中心に配布していましたが、より幅広くフランクフルト・ブックフェア参加者に配布いたします。

フランクフルト・ブックフェアへの日本の参加のあり方について検討していただく『フランクフルト・ブックフェア世話人会』については、より幅広い出展関係者のご意見を

伺う形で一層の情報収集に努め、出展環境の整備、出展社の増加に繋げていきたいと存じます。

1993年より導入していただいている納本制度によって生み出される特別賦課会費は本会の財政上、その役割が誠に大きく、新年度も引き続き多くの会員社のご理解・ご支援をぜひともお願い申し上げます。

2016年3月28日

一般社団法人 出版文化国際交流会  
会長 竹内 和芳

# 事業計画詳細

## I. 国際ブックフェアへの参加事業

### 1. 出展参加

#### (1) 第23回東京国際ブックフェア2016

今回は開催時期を9月に移し、『読者のためのブックフェア』を基本コンセプトとし読書推進・読者謝恩の場として開催されます。本会では実行委員会の一員として運営に関わっていますが、一般社団法人認可条件である公益目的支出計画の継続実施事業として独自のブース(10㎡)をもって参加します。前年度の実績を踏まえ、パネル、代表的図書、カタログ等による会員社紹介の企画をさらに進める予定です。

#### (2) 国際交流基金との共催事業により参加する国際ブックフェア

世界各地の国際ブックフェアで日本ブースは大変な人気を博しており、在外公館、国際交流基金の海外事務所を通してのブックフェア参加申請は例年、多数寄せられます。新年度参加予定の国際ブックフェア一覧は6頁のリストのとおりですが、限られた予算で最大の成果を得られるよう、国際交流基金とも緊密な協議を重ねながら事業を進めていく所存です。

クオリティの高い日本からの出展図書はブックフェア会場で来場者を魅了し、終了後は日本語学科のある大学等、関係機関へ寄贈され、長期にわたって活用されます。中南米や中東地域等、比較的日本の図書になじみのない国々に図書を届けられるこのプロジェクトは非常に有意義と好評を得ています。

またブースでの図書販売は現地書店の協力を得てソウル、中東各地で実現していますが、受注販売も含め香港、中米等今後さらに拡大を目指していきたいと考えております。

#### (3) 第22回ソウル国際ブックフェア2016

今年度も国際交流基金と本会の共催ブースを設けます。好評な期間中の来場者への図書販売については引き続きトーハン、教保文庫の協力をいただき実施の予定です。

国際交流基金と本会の共催ブース以外に、単独出展のお世話も準備したいと存じます。

#### (4) 第68回フランクフルト・ブックフェア2016(一部国際交流基金との共催事業)

1) 昨年度会場構成の再編に伴い課題を残した日本会場の位置取りについては主催者と折衝を行っています。

2) 従来と同様、日本インフォメーション・センター、共同展示場、周囲に単独出展社ブースの配置で日本会場を構成します。

3) 単独出展社ブースはサイズ、位置等、可能なかぎり希望に沿うべくブックフェア事務局と折衝し、出展環境の整備に努めたいと存じます。

- 4) 共同展示場には、国際交流基金と共同で総合的な「日本インフォメーション・センター」(16 m<sup>2</sup>)と(一社)自然科学書協会、(一社)大学出版部協会の協力参加による共同展示コーナーを設置する予定です。
- 5) 共同展示コーナーでは、1メートル幅のコーナー展示と商談スペースの提供もを行います。
- 6) 図書の展示にあたっては、より有益な書誌情報が提供できるような体制を整えていくこととします。具体的には、日本文学出版交流センター(通称 J-Lit)のご協力をいただき、同センターのウェブサイト”Books from Japan”上に出展図書の英文書誌情報を掲載し、世界の出版関係者に事前周知するシステムを実施する予定です。この書誌情報は実際の展示にも有効活用させていただきます。
- 7) 一昨年の東日本大震災関連図書、昨年の俳句関連図書の展示に続き、可能な限り時宜を得たテーマ展示等の企画を試みたいと存じます。
- 8) 日本会場における書籍の展示・紹介にとどまらず、日本の出版文化を幅広く紹介するため、在フランクフルト日本総領事館、ケルン日本文化会館のご協力をいただく予定です。また予算の範囲で生け花を始めとする他の国際文化団体との連携を図ります。
- 9) 昨年に引き続き新年度も、情報を整理の上、単独出展社分を含めたブース借料、ブース設営費、送料の各項目を柱とした出展経費節減に関する補助金の申請を試みたいと思います。
- 10) フランクフルト・ブックフェアへの日本の参加のあり方を諮問いただく「フランクフルト・ブックフェア世話人会」はより幅広い出展関係者のご意見を伺う形で一層の情報収集に努め、ブックフェア事務局との連携を密にし、出展環境の整備、出展社の増加に繋げていきたいと存じます。

## 2. 国際ブックフェア関連事業

- (1) ライプチヒで開催される「世界で最も美しい本コンクール」へ出品  
「第50回・造本装幀コンクール」の受賞作品を、(一社)日本書籍出版協会と共同出品いたします。本コンクールには毎年30ヶ国を超える国々から出品され、3月のライプチヒ国際ブックフェア開催時に表彰式が行われ、その年のフランクフルト・ブックフェアで全作品が特別展示されます。
- (2) 海外の出版事情視察団の編成
  - 1) 「フランクフルト・ブックフェアとイタリア出版事情視察コース」
  - 2) 「フランクフルト・ブックフェア ビジネスコース」
  - 3) その他

## II. 広報活動

### 1. 会報の発行

一昨年復刊した会報の発行を年 2 回（原則として 7 月と翌 1 月）に定例化させ、ホームページと併せて広く本会の活動をお知らせしていきます。

### 2. ホームページによる広報

ホームページ上で本会の活動を紹介。会員社を始め、オンライン書店、主要国際ブックフェアホームページへのリンク等の基本情報とともに、主要な国際ブックフェア開催日一覧や派遣専門家の最新報告、さらに海外出版事情視察旅行企画の案内等を行っていく予定です。

### 3. 『Accessing the Japanese Publishing Industry（略称 AJPI）』

英文版・日本出版界の実用ガイド

好評であった従来の『Practical Guide to Publishing in Japan』を受け継ぎ、より汎用性の高い形で昨年度 AJPI を作成いたしました。具体的には A5 判変型、本文 32 頁、翻訳出版権・図書の売り込みや購入の商取引につながる基本情報、翻訳出版助成機関の紹介、主要な出版関連機関、団体の住所等、外国の出版関係者に有用と思われる情報をコンパクトに紹介する内容で、本会のホームページにも同じ内容を掲載しています。新年度については特に版を改める計画はありません。

### 4. 『フランクフルト・ブックフェア』（手引書）

B5 判、発行：80 部

世界最大のブックフェアを、その歴史から最新の開催状況までコンパクトにまとめる小冊子を作成します。内容を充実させながら活用しやすく簡易製本の形にして希望会員社、視察団参加者に配布します。

## III. 関連活動

納本制度の継続実施

ご協力いただいていない会員出版社にはご協力依頼を改めてお願いし、既にご協力いただいている会員出版社には更に上積みのご協力を引き続きお願いする所存です。

## 2016 年度参加予定の「国際ブックフェア」

国際ブックフェア名	会期	備考
1. 第 42 回ブエノスアイレス国際ブックフェア	4.21～5.11	
2. 第 2 回アスンシオン国際ブックフェア	4.22～5.1	
3. 第 29 回テヘラン国際ブックフェア	4.29～5.10	
4. 第 26 回アブダビ国際ブックフェア	4 末～5 初旬	
5. 第 22 回ソウル国際ブックフェア	6.15～19	事務局派遣
6. 第 27 回香港ブックフェア	7.20～26	
7. 第 21 回リマ国際ブックフェア（ペルー）	7 中～8 初旬	
8. 第 12 回パナマ国際ブックフェア	8.16～21	
9. 第 24 回サンパウロ国際ブックフェア	8.25～9.4	
10. 第 37 回マニラ国際ブックフェア	9 中旬.	
11. 第 23 回東京国際ブックフェア	9.23～25	
12. 第 68 回フランクフルト・ブックフェア	10.19～23	事務局派遣
13. 第 61 回ベオグラード国際ブックフェア	10.23～30	
14. 第 41 回クウェート国際ブックフェア	11.18～28	
15. 第 18 回モスクワ国際知的図書展 non/fiction	11.30～12.4	
16. 第 27 回ドーハ国際ブックフェア（カタール）	12.	
17. 第 23 回カサブランカ国際ブックフェア	2017.211～21	
18. 第 25 回ニューデリー国際ブックフェア	2017.2	
19. 第 18 回ビリニュス国際ブックフェア	2017.2	

[注]11. 第 23 回東京国際ブックフェア以外は国際交流基金との共催事業

## 第57期 2016年度(平成28年度)収支予算

自:平成28年4月1日 至:平成29年3月31日

### 一般社団法人出版文化国際交流会

(単位:円)

項目	科目	28年度収支予算案	27年度収支予算	増減
前期繰越		33,528,000	19,287,000	14,241,000
<b>1 事業活動収入</b>				
入会金収入		100,000	100,000	0
会費収入	会費収入	14,510,000	15,620,000	-1,110,000
	特別会費収入	450,000	3,000,000	-2,550,000
	特別賦課会費収入	6,839,000	6,933,000	-94,000
事業収入	フランクフルト・ブックフェア参加収入	22,557,000	19,110,000	3,447,000
	ソウル・ブックフェア参加収入	892,000	750,000	142,000
	国際交流基金預託金(立替分)	8,084,000	10,000,000	-1,916,000
補助金等収入	受取利息	5,000	4,000	1,000
	雑収入	31,000	31,000	0
その他	その他収入	300,000	317,000	-17,000
当期収入合計		53,768,000	55,865,000	-2,097,000
前期繰越+当期収入合計		87,296,000	75,152,000	12,144,000
<b>2 事業活動支出</b>				
事業費支出	フランクフルト・ブックフェア参加費	25,031,000	20,300,000	4,731,000
	ソウル・ブックフェア参加費	2,147,000	1,900,000	247,000
	国際ブックフェア参加費	1,063,000	1,000,000	63,000
	国際交流基金預託金(立替分)	5,748,000	10,000,000	-4,252,000
	目録発行費	0	308,000	-308,000
	東京国際ブックフェア参加費	500,000	617,000	-117,000
	調査費	905,000	1,120,000	-215,000
管理費支出	給与手当	10,136,000	10,666,000	-530,000
	福利厚生費	1,440,000	1,500,000	-60,000
	旅費交通費	750,000	1,008,000	-258,000
	通信運搬費	919,000	1,543,000	-624,000
	印刷費	889,000	700,000	189,000
	会報発行費	220,000	206,000	14,000
	会議費	214,000	200,000	14,000
	慶弔費	24,000	32,000	-8,000
	保険料	7,000	7,000	0
	消耗品費	300,000	334,000	-34,000
	雑費	209,000	196,000	13,000
不動産関係	賃借料	1,854,000	1,851,000	3,000
	水道光熱費	200,000	200,000	0
税金関係	租税公課	84,000	75,000	9,000
その他	その他支出	19,000	600,000	-581,000
当期支出合計		52,659,000	54,363,000	-1,704,000
次期繰越額		34,637,000	20,789,000	13,848,000

(注)1 借入金限度額 0円

(注)2 債務負担額 0円